スマホ依存について

小学5・6年の部　1席

西谷山小5年　**大久保京香さん**

スマホはとても便利なものです。電話や写真などがつかえるし、いろいろな事を調べられるからです。だから私も母のスマホをときどきかりて使います。音楽を聞いたり調べ物をしたりします。指でサッとスライドするだけで自分の思っている言葉をだしてくれたり好きな音楽を聞かせてくれたりまるで魔法のようです。このような便利なスマホで子どもたちがスマホ依存になっています。私も夜ねる前にスマホを見る時があり、その日はなかなかねつけませんでした。私の年れいでもえいきょうがあるのだから、小さい子どもたちには、もっと強いしげきになっているはずです。

お店やレストランに行った時も、小さい子どもたちが、スマホを使っている様子を見たりします。静かにしていてほしいからと、親がスマホをあたえることが多いです。スマホがない時には、どうしていたのでしょう。小さい子どもたちには、絵本を見せてあげたり、親が声をかけていたと思います。そして、お店やレストランでは、静かにしないといけないということを教えてあげたのではないでしょうか。今は、大人も子どもも、いつでも、さわっています。マナーなど、おかまいなしです。大人がこのような態度であれば、小さい子どもたちは、それが正しい事だと思い、まねをします。一番大切な、脳の発達に悪影響を及ぼすかもしれないのに。

とても便利で役立つスマホですが、それにばかり頼っていると、何もできない子どもに育ってしまいます。自分で体験した事。体で覚えた事。失敗しても、又、やってみようと努力する。それが、かんたん便利なスマホを使っていると、何の感動する事もなく、すんでしまいます。むずかしい事も、わずかな時間でかい決すると、いつも、これを使ったら、良いのだと思ってしまいます。

母に、

「私が小さい時、スマホが家にあったら、それで遊ばせていたかな。」

とたずねました。母は、

「あなたが、おとなしくしてくれるなら、遊ばせていたかもね。ケガをする事もなく安全だからね。」

と、言いました。私は、それが一番子どもにとって危険な事なんだと思いました。大人が小さい子どもたちがスマホを使うと脳の発達に、悪影響を及ぼすということを知らないからです。タバコは、すう人もすっている周りの人にも、害になることは世の中の人、みんなが知っている事です。スマホが、小さい子どもに与える悪影響をもっと、世の中の人が知るべきだし、メディアも発信してほしいと思いました。

南日本新聞　2019年11月17日掲載

MEMO

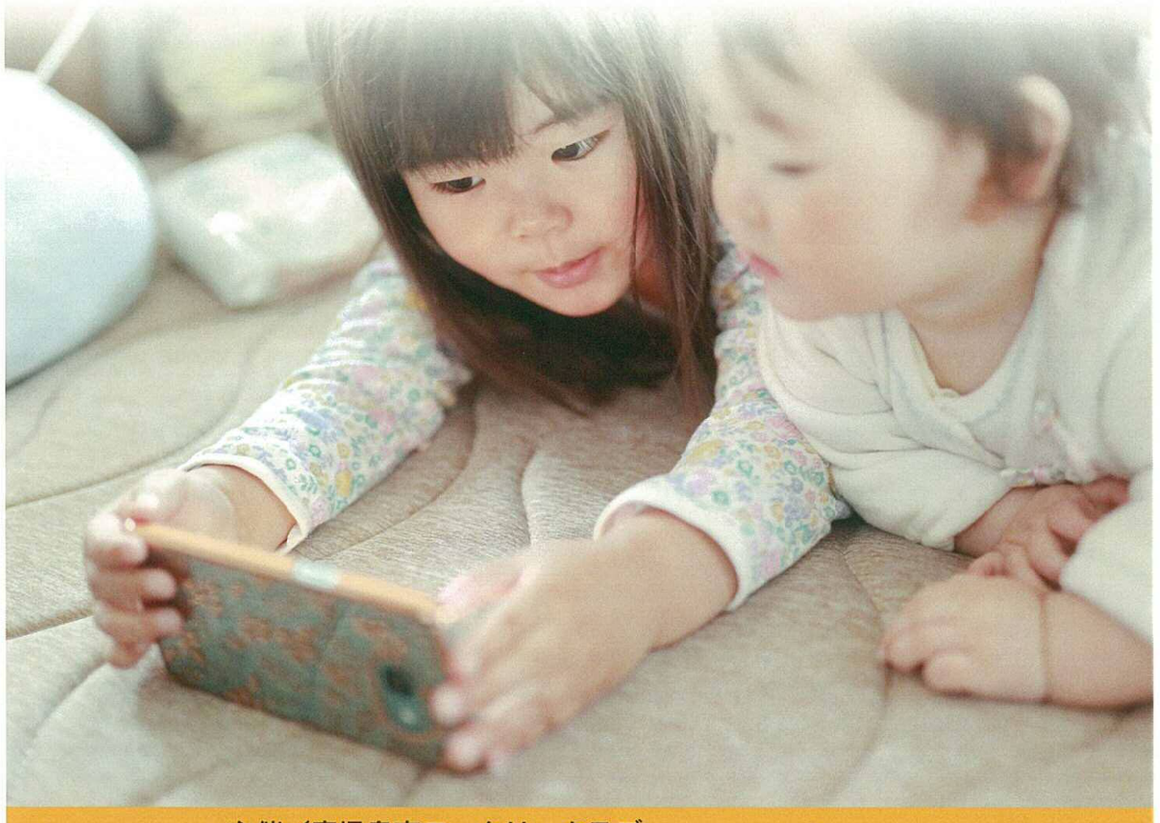
Rotary

低年齢化する子どものメディア漬け

2歳児問題

日時　令和2年 1月8日(水) 開始 16:00～17:30

場所　ホテルマイステイズ鹿児島天文館



主催／鹿児島南ロータリークラブ
共催／鹿児島北ロータリークラブ、指宿ロータリークラブ
協力団体／鹿児島市私立幼稚園協会2ブロック

低年齢化する子どものメディア漬け 2歳児問題

ごあいさつ

鹿児島南ロータリークラブ
会長　**中村 佐知子**

鹿児島南ロータリークラブは社会奉仕の継続的活動として、2010年から"児童虐待防止"について取り組んで参りました。児童虐待防止を基本に、一年一年、講演やシンポジウム・即興劇など視点を変えながら、会員、地域の方々と考えてきました。

昨年度は、鹿児島北ロータリークラブ、指宿ロータリークラブとの共催、鹿児島子ども虐待問題研究会を協力団体として、高校生を対象に児童虐待防止に関する講演会を開催いたしました。

今年度は児童虐待のDV、パワハラ等も防止活動に繋げようとの意見もあり、2019年WHOが認定したゲーム障害について考えることになりました。『暴言や暴力など攻撃性が高まる事例も示されているゲーム障害は、なりやすい対象が未成年層という点に大きな特徴がある。鹿児島県内の児童を対象にした調査では、ネット・ゲーム依存の疑いが小学生低学年の男子で2018年度20%という結果があり、発達段階にある子どもの脳は未熟で、ゲームに触れるのが幼いほど危険性が高く、一気に依存症に進むといわれている。』(増田クリニック増田彰則院長関連の新聞記事を参照)という指摘もあります。

幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期です。そこで、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていく幼児の発達過程において、ゲーム障害が及ぼす影響をテーマとして取り上げ、この問題に詳しい心療内科医師の増田彰則先生にお話し頂き、幼稚園関係者等をはじめご参加の方々と共に考えたいと思います。

「スマホ障害、ゲーム依存症にならないために」

鹿児島北ロータリークラブ
会長　**喜山 修三**

刺激的で魅力的なものは、それを利用する人を虜にし、その利用者の日常生活に重大な障害を及ぼすことがある。それが魅力的であればあるほど、また手軽であればあるほど影響は甚大である。

今から数十年前、テレビが大きな問題になった時代があった。すなわち、テレビを長時間見ると学力が低下する、目が悪くなる、教育上悪影響を及ぼすなどである。その時代の保護者にとってはとても重要な問題であった。テレビの問題は子供や学生だけの問題であり、また、依存症やテレビ障害等という言葉は存在しなかった、と思う。

それから時が流れ、スマホ依存症やゲーム障害が重要な問題になった。スマホは手軽でその使用場所を問わないので、その影響力は先に挙げたテレビの比ではない。「スマホ依存症」に陥ると、健全な日常生活に大きな影響を及ぼす。判断能力の備わった大人でさえ、そのような状態になるのであるから、まだ発達途上にある幼稚園児や小学生の子供たちがゲーム障害に陥るのは容易に想像がつく。

スマホはとても便利な情報通信機器である。スマホの利用に当たっては、スマホ障害やスマホ依存症にならないようにしなければならない。すなわち予防が最も大切である。しかし、残念ながらゲーム障害に陥った場合は、そこから抜け出すことが大事である。この講演会が、スマホ依存症やゲーム障害にならない方法、ゲーム障害からの脱出、なによりもスマホの適切な利用方法の学びの場になることを確信します。

※当講演会は国際ロータリー第2730地区の補助金を受けて第11回児童虐待防止イベントとして開催いたします。

プログラム

16:00～17:30

講演タイトル

低年齢化する子どものメディア漬け －2歳児問題－

講師

増田 彰則氏
医療法人増田クリニック院長

講師プロフィール

増田（ますだ） 彰則（あきのり）氏
医療法人増田クリニック院長

■1986年　宮崎医科大学医学部卒業
1996年　医学博士取得
鹿児島大学医学部第一内科助手、鹿児島大学病院呼吸器・ストレスケアセンター講師を経て
2006年11月　増田クリニック開院
鹿児島大学医歯学総合研究科　客員研究員

■専門とする疾患など
内科学、心療内科を専攻
中でも疲労、痛み、うつ病、不登校、小児心身症、ネット・ゲーム依存、神経症など

■免許・資格
医師、医学博士、日本心身医学会(内科)専門医・指導医、日本心療内科学会専門医
日本医師会認定産業医、日本小児心身医学会代議員

■社会活動
学校カウンセリングセミナー講師(鹿児島県総合教育センター)
鹿児島いのちの電話講師
産業医(南日本新聞社、南日本開発センター、ＫＴＳ)
鹿児島医療・社会・倫理研究会代表世話人
さつま町子ども・子育て応援大使
鹿児島県生徒指導アドバイザー(県教育委員会)